



つやま農業便

2024

岡山県美作県民局農林水産事業部
美作広域農業普及指導センター



表紙・裏表紙の写真について



- ① 自動抑草ロボット「アイガモロボ」
- ② 収穫前のミニトマト
- ③ ぶどうの新梢管理指導
- ④ 就農オリエンテーション
- ⑤ りんどう「しなの2号」とカエル
- ⑥ 収穫前の「きぬむすめ」
- ⑦ 畜産共進会

- ⑧ アスパラガスの透水性実態調査
- ⑨ パンづくり研修会
- ⑩ 収穫前の「せときらら」
- ⑪ 経営相談
- ⑫ ぶどうの若木の育成指導

岡山県美作県民局農林水産事業部
〒708-8506 岡山県津山市山下53

美作広域農業普及指導センター

TEL	(0868)23-1496-1513 【革新農業推進班】 (0868)23-1524 【担い手・農産班】 (0868)23-1516 【園芸第一班（果樹）】 (0868)23-1525 【園芸第二班（野菜）】
FAX	(0868)23-5962
MAIL	tsuya-fukyu@pref.okayama.lg.jp
HP	https://www.pref.okayama.jp/soshiki/120/

美作広域農業普及指導センター

農畜産物生産課

TEL	(0868)23-1310 【畜産第一班】
FAX	(0868)24-4962
MAIL	mima-norin@pref.okayama.lg.jp
HP	https://www.pref.okayama.jp/soshiki/119/

農林水産事業部

目次

地域の動き

未来を耕す!.....	1
将来の産地は君が担う!新規栽培者が輝く産地に向けて.....	2
アスパラガスの補植技術で栽培継続を後押し.....	3
カメムシの脅威にも負けない露地野菜栽培.....	3
りんどうの低標高地栽培の取り組みと花き産地のPR.....	4
収穫作業に興味津々!パン屋さんが小麦産地を見学する.....	5
飲食店等の営業許可について6次産業化経営体が現地で意見交換.....	5
あぐり女史の会が農泊の先進事例を調査.....	6
事業継続のために必要な備えを!農業版BCPを学ぶ.....	6

技術の紹介

有機農業で活用できる「アイガモロボ」を実演!.....	7
緑肥で水稻の化学肥料低減だ.....	7
「アブサップ液剤」の散布で「ピオーネ」の着色向上!.....	8
ワイヤーメッシュに一工夫!~イノシシからぶどうを守ろう~.....	8
地域にあったきゅうりの新品種導入を支援しています.....	9
アスパラガスほ場 透水性の実態が判明!.....	9
飼料作物のドローン播種栽培で省力化!.....	10

地域の動き

未来を耕す！

地域計画の策定や農村RMO設立に向けた協議が進んでいます

農用地の効率的かつ総合的な利用を図るため、令和6年度末までに、地域計画を定めることになっています。津山市M地区では、他地区に先行して、地域住民の意向調査を行い「10年後の農地活用地図（目標地図）」を作成しました。また、高齢化で地域機能の維持管理が難しくなっていたこともあり、一般社団法人の農村RMO（農村型地域運営組織）を設立し、非農家も一緒に、農地維持活動や高齢者福祉に取り組むことにしました。



地域計画策定に向けた協議



農村RMOの設立準備打合せ

未来の産地は任せんちゃい！ 津山地域の若手農業者グループ

青年農業者クラブは、津山市、鏡野町、久米南町及び美咲町それぞれの市町にあり、農業後継者や新規参入者など60人の若手農業者が活動しています。クラブ員が栽培した農産物を園児にプレゼントする食育活動やSNSでの地域の魅力発信、地域の課題解決に向けたプロジェクト活動、地域ボランティア等に取り組んでいます。活動を通し、仲間作りや将来の地域農業の担い手として資質向上を図っています。



かがみの中央こども園へ農産物をプレゼント



地ビールフェスタ出店

将来の産地は君が担う!新規栽培者が輝く産地に向けて

ぶどう新規栽培者が先進農家のほ場で技術習得

普及指導センターは、管内のぶどう栽培を始めて間もない生産者や栽培予定者を対象に、基礎的な栽培技術の習得を目的とした「ぶどう栽培初心者の会」を年6回開催しています。開催ほ場を各回で変更することで、新規栽培者に幅広い栽培事例を知ってもらいました。参加者からは「新たな知識が得られ、経営に活かしたい」、「他産地の農家と交流ができて良かった」などの声が聞かれました。



小グループに分かれての意見交換



ロボット草刈り機をみる参加者

久米南町ぶどう産地のさらなる拡大に向けて

JA晴れの国岡山久米南ぶどう部会は、平成20年度頃から新規就農者の受入を積極的に進めています。新規就農者の増加や既存農家の経営規模拡大によりぶどう園が不足してきたことから、令和2年度から4年をかけて遊休水田をぶどう園(6.8ha)に整備しました。すべての農地で栽培者が決定し、令和6年中にはぶどう棚が完成します。普及指導センターでは、若木管理等の指導を徹底し、順調に生産拡大できるよう支援していきます。



ぶどう棚が完成!



若木の管理を指導

地域の動き

アスパラガスの補植技術で栽培継続を後押し

アスパラガスは1度定植すると約10年間栽培できますが、栽培年数が経過するにつれ、病気等により欠株が増加し、収量と生産者の意欲が低下してしまうことが問題となっています。そこで、欠株部分に新しい苗を定植し、株数を維持する補植技術に取り組んでおり、研修会で部会員に紹介しました。部会員からは「収量の低下で栽培を諦めようと思っていたが、補植に挑戦し、もう一度頑張りたい」との前向きな声が聞かれました。



研修会の様子



補植後の苗の状況(7月28日)

カメムシの脅威にも負けない露地野菜栽培

令和6年は全国的にカメムシ類が多い年となりました。中でも発生が多かったチャバネアオカメムシやクサギカメムシは一般に“果樹カメムシ類”と呼ばれ、主に果樹類で問題となっていました。管内のきゅうり、なす、アスパラガスなどの露地野菜でも被害が目立ちました。これらのカメムシ類の発生量は年次変動が大きく、餌となるヒノキ球果の量や越冬量等に影響されることから、今後も発生予察情報等を基に適期防除を推進します。



果菜類(きゅうり、なす)におけるカメムシ被害



防除後のチャバネアオカメムシ(アスパラガス)

りんどうの低標高地栽培の取り組みと花き産地のPR

低標高地でりんどう栽培

つやま地域リンドウ研究会は低標高地栽培に取り組み、令和6年度に初出荷を迎えました。りんどう栽培は標高200m以上のほ場が適していると言われていたのですが、標高150mのほ場で遮光シートの設置やこまめな畝間かん水を行うなど、高温対策を徹底しました。その結果、高温障害と呼ばれる花卉の白斑症状は出ず、きれいなりんどう「岡山RND4号」を6月から盆まで出荷できました。令和7年度以降も継続して生育状況を観察します。



低標高地でのりんどうの生育を確認する会員



開花したりんどう「岡山RND4号」

産業まつりで地元の花きをPR

9月1日に開催された2024鏡野町産業まつりで、つやま地域リンドウ研究会及び奥津花卉生産組合は、りんどうやアルストロメリアなど町内産の花きのPRをしました。恒例となっている花きの展示やアンケート回答者への無料配布に加え、令和6年はりんどうの販売も行い、用意していたおよそ80束のりんどうは完売しました。来場者には、「りんどうに花が多く付いていてきれい」、「アルストロメリアは花色がカラフルで鮮やか」と好評でした。



無料配布のりんどうを受け取る来場者



花き展示の前でアンケートに答える来場者

地域の動き

収穫作業に興味津々!パン屋さんが小麦産地を見学する

津山地域はパン用小麦の産地であり、地元での需要拡大の取組の一環として、6月17日、パン用小麦の産地見学会を農事組合法人AKファーム（津山市安井）で開催しました。地元産小麦を使用するパン屋から8名が参加し、小麦の収穫作業や乾燥調製作業を見学しました。参加者は、「生産者が苦勞して栽培していることが分かった。大切に育てられた小麦を使って、これからは美味しいパンを焼いていきたい。」と話していました。



普及指導員の説明で実を取り出す参加者



乾燥調製後の小麦を見る参加者

飲食店等の営業許可について6次産業化経営体が現地で意見交換

7月30日、飲食店営業と農家民宿を営む勝央町の農業者宅を訪問し「営業許可取得の考え方と具体的な手続き」をテーマに意見交換会を開催、津山・真庭・勝英の各地域から18名が参加しました。受け入れた農業者から「自分がこうありたいと思うビジョンを持つことが重要」と説明があり、自宅をDIYした低予算事例が紹介されました。参加者からは「生活の一部を見せる気持ちで農業体験メニューを考える」など前向きな意見が多く出ました。



営業許可取得のコツを説明する受入農業者



農泊の取組について意見交換する参加者

あぐり女史の会が農泊の先進事例を調査

11月14日、あぐり女史の会はプロジェクト課題で農泊の先進事例を調査しました。美咲町大井和西の棚田にある民泊 Oto で施設を見学し、利用状況や開業までの苦労、注意点を学びました。「田舎の良さを感じてもらえるように設計した。自然の遊びを求める声が高まってきていると感じている。」という事業主の説明を受けて、「将来は離れを改装して農泊に取り組みたい。」とメンバーの1人は話していました。



施設内を見て回る会員



事業主の説明を受ける会員

事業継続のために必要な備えを！農業版BCPを学ぶ

8月8日、農業の事業継続研修会を開催し、県内農業者で唯一「岡山県版BCP（事業継続計画）」の認定を受けている木下良一氏（倉敷市）から、農家にとっての事業継続困難リスクとその対策を見える化したBCPの内容、改善し実効力を高めるための訓練について説明を受けました。参加者からは「作目は違うけど共通部分が多く参考になった」などの感想がありました。皆さんもチェックリスト等を活用して必要な備えの確認から始めませんか？



実践事例を紹介する木下氏



農家に必要な備えについて意見交換

技術の紹介

有機農業で活用できる「アイガモロボ」を実演！

近年、環境への負荷を低減する農業への関心が高まっています。そこで、除草剤を使用しない除草方法として活用できる「アイガモロボ」の実演会を6月20日に津山市新野東で開催しました。メーカー担当者が従来機と新型機の説明を行った後、ほ場で作業の実演を行いました。参加者からは「少ない労力で雑草を抑えられる」との声がありました。今後も稲作における環境負荷軽減の取組について検討していきます。



メーカーによる「アイガモロボ」の説明



稼働中の「アイガモロボ」

緑肥で水稻の化学肥料低減だ

肥料高騰対策のため、ペルシアンクローバー「まめ小町」を令和5年10月に播種し、5月16日にすき込みました。令和6年度は排水溝を設置したので、生育ムラはあるもののほ場全体で繁茂しました。6月2日に「きぬむすめ」を基肥無肥料で移植したところ、ガス湧きて初期生育が遅れましたが、その後生育は回復し、通常の穂肥だけで栽培することができました。5月上中旬にすき込み、5月下旬～6月上旬に移植の栽培体系が適します。



緑肥の生育(2月15日)とすき込みの状況
(5月16日、生草重平均 2.6 トン/10a)



「きぬむすめ」の生育状況(7月12日、9月19日)

「アブサップ液剤」の散布で「ピオーネ」の着色向上!

「ピオーネ」の着色向上効果が期待される植物成長調整剤「アブサップ液剤」が、令和6年度から本格的に販売されています。管内3か所で本剤を散布したところ、着色は約0.5～1.35（カラーチャート値）向上し、脱粒や軟化、果軸の褐変等の日持ち性に影響は見られませんでした。一方、果実袋を1度外し、散布して再度掛け直すまでに約25時間/10aを要しており、費用対効果を考慮して使用の有無を検討する必要があります。



収穫時の果房の様子（撮影日：8月28日）

	果房重 (g)	1粒重 (g)	果皮色 (C.C)	糖度 (Brix %)	酸度 (pH)	食味 (1:不良 ~5:良)
無処理区	682	15.1	5.4	18.7	3.5	3.7
処理区	678	15.3	6.3	18.5	3.5	4.0

散布時間 (h/10a)	果実袋の脱着時間(h/10a)		合計
	除去	再装着	
4.4	6.5	13.8	24.7

果実品質の比較と処理に要する時間

ワイヤーメッシュに一工夫!～イノシシからぶどうを守ろう～

JA晴れの国岡山津山ぶどう部会は、地域内で増加している鳥獣被害への対策を進めています。令和6年度は、イノシシの侵入防止対策として「メッシュガイシ」を活用した複合柵に取り組みました。「メッシュガイシ」を用いることで、ワイヤーメッシュに電気柵を容易に追加することができ、中小型獣類の侵入防止も期待できます。また、この取組みにより、ワイヤーメッシュだけではイノシシに侵入されていたほ場への新たな侵入を防ぐことに成功しました。



「メッシュガイシ」を活用した複合柵



電柵に触れる動物（赤丸：動物、黄線：電線）

技術の紹介

地域にあったきゅうりの新品種導入を支援しています

近年、久米南町の露地きゅうり栽培において病害の早期発生、蔓延によって収量の減少が問題となっているため、耐病性が比較的強く、他産地で実績のある品種「なつめく」の現地適応性を検証しました。「なつめく」はべと病と炭疽病、褐斑病の耐病性が慣行品種「RJ-6」、「Vシュート」と比べてやや強いと同程度であり、果形や収量性が良好であったことから、地域への適応性を有していると考えられました。



実証品種「なつめく」

【病害調査結果】

	7月4日			7月18日			8月2日			8月16日			8月30日			9月19日		
	べと	炭疽	褐斑	べと	炭疽	褐斑	べと	炭疽	褐斑	べと	炭疽	褐斑	べと	炭疽	褐斑	べと	炭疽	褐斑
なつめく	少	無	無	少	少	無	中	無	無	中	無	無	少	無	中	少	無	多
RJ-6	少	少	無	中	中	無	多	無	無	多	無	無	少	無	中	少	無	多
Vシュート	少	無	無	少	少	無	中	無	無	中	無	無	少	無	中	少	無	多

発生基準：無→少→中→多（→に従い病害が増加）

アスパラガスほ場 透水性の実態が判明！

普及指導センターはアスパラガスの栽培実態を把握するために、生産者ほ場にて土壌の透水性調査を行いました。深さ40cmの縦穴を掘って中に水を入れ、水位がどの程度下がるかを測定して評価をしました。その結果、粘土質で水が下に抜けにくい土壌が多く見られ、調査したほ場のほとんどで透水性が不良であると評価されました。明渠等の排水対策をしっかりと行う重要性を再認識する結果となりました。



縦穴を掘っている様子



水位の変化を測定

飼料作物のドローン播種栽培で省力化！

地域農業の担い手不足、大規模化が進む中、大規模経営体では省力栽培を模索しています。その一つの方法として、飼料作物のドローン播種栽培について検討しました。

収穫前の稲の上からイタリアンライグラスの種子を播種

令和5年9月に、イタリアンライグラスの種子を収穫前の稲の上からドローン播種し、作業時間や収量性を検討しました。その結果、収穫までの全作業時間は慣行の1.5時間/10a から1時間/10a に短縮できました。肥料もドローンで散布すると省力が可能です。また、適正播種量の検討のため4kg/10a と6kg/10a で収量を比較しましたが、どちらも同等でした。



稲の上空から播種する様子



収穫前(開花前期)の様子

WCS用稲の乾籾を播種

令和6年5月に、WCS用稲のドローン播種栽培に取り組みました。今回は自然灌水する湿田で栽培し、水管理を省略しました。その結果、通常の稲作では育苗から収穫まで10時間/10a 近くかかる作業時間を約1.5時間/10a に短縮できました。また、播種量が6kg/10a と9kg/10a の収量を比較すると、6kgの方が約2割多い結果でした。



播種の様子



収穫前(出穂期)の様子



岡山県美作県民局農林水産事業部

〒708-8506 岡山県津山市山下53

美作広域農業普及指導センター

TEL

(0868)23-1496・1513 【革新農業推進班】
(0868)23-1524 【担い手・農産班】
(0868)23-1516 【園芸第一班（果樹）】
(0868)23-1525 【園芸第二班（野菜）】

FAX

(0868)23-5962

MAIL

tsuya-fukyu@pref.okayama.lg.jp

HP

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/120/>



美作広域農業普及指導センター

農畜産物生産課

TEL

(0868)23-1310 【畜産第一班】

FAX

(0868)24-4962

MAIL

mima-norin@pref.okayama.lg.jp

HP

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/119/>



農林水産事業部